

## 2025 新潟大学（前期）数学（文系）概評

出題分析		
試験時間 90 分	配点 学部により異なる	大問数 学部により異なる
分量（昨年比較）〔減少 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同程度</span> 増加〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同程度</span> 難化〕
<p><b>【概評】</b></p> <p>新潟大頻出の分野が本年度も出題された。一昨年の「集合」のような難問は無かったが、計算量がやや多かったため難易度は昨年並みである。</p> <p>毎年頻出の三角関数の分野からの出題がなく、また、理系との共通問題が復活し、さらに同テーマの問題（数列）も出題された。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	平面ベクトル（数学 C）	内積に関する基本的な問題。ベクトルの面積公式を使うと計算が楽である。理系との共通問題。	やや易
2	数列総合（数学 B）	よくあるタイプの問題であるが、全体的に量が多い。誘導にきちんと乗れることがポイント。理系との同テーマ問題。	標準
3	確率（数学 A）	さいころを 4 回投げるといって定型問題。類題の経験がある受験生も多いだろう。(3), (4) は余事象を利用するとわかりやすい。	標準
4	微分積分（数学 II）	面積に関する標準問題。(2) ではパズルを用いるとほとんど計算をしない。(3) の極値計算は、文系数学では厳しいのではないかな。	標準

### 合格のための学習法

まずは、教科書の章末問題レベルの問題をきちんと解けるようになることが大事です。その上で、新潟大頻出の分野や解法にスポットを当てながらきちんと演習を積んでいくことです。代ゼミの授業などを利用して 1 年間頑張ってください。